

第四次みやぎ子供読書活動推進計画に基づく

**令和5年度**

**子供読書活動に関するアンケート調査**

**調 査 結 果**

**令和6年3月**

**宮城県教育庁生涯学習課**

# 1 目的

本県では、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条に基づき「みやぎ子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進しています。

現在は、「第四次みやぎ子供読書活動推進計画」（平成31年（令和元年）度から令和5年度）により、目標達成に向けた基本方針及び活動方針のもと、各種取組を進めています。

このたび実施した「令和5年度子供読書活動に関するアンケート調査」には、計画の評価指標を把握する調査項目を入れており、調査結果を基に、目標の達成状況について確認を行っています。

## 計画の基本目標

みやぎの子供が、自主的な読書活動を通じて、  
夢と高い志を持ち、心豊かでたくましく生き抜く力を  
身に付けることを目指します。

## 2 対象・期間

### (1) 対象

県内の小学3年生から6年生、中学生、高校生から抽出を行った児童・生徒

### (2) 期間

調査対象期間：令和5年11月の1ヶ月間

実施期間：令和5年12月～令和6年1月

## 3 抽出方法

(1) 県生涯学習課が学年（学科）を指定して学校を抽出

(2) 抽出された学校が、指定された学年（学科）のうち任意の学級を1学級以上選択

## 4 回収率

93.4% （回収数 128学級 / 母数 137学級）

（内訳）

- ・小学校（47学級 / 49学級）
- ・義務教育校（1学級 / 1学級）
- ・中学校（43学級 / 45学級）
- ・高等学校（37学級 / 42学級）

## 5 調査項目

1	今年11月の1ヶ月間に本を読みましたか	
2	何冊読みましたか	(1で「読んだ」と答えた人のみ)
3	読んだ理由は何ですか	(1で「読んだ」と答えた人のみ)
4	読まなかった理由は何ですか	(1で「読まなかった」と答えた人のみ)
5	読みたいが読めなかった理由は何ですか	(4で「読みたいが読めなかった」と答えた人のみ)
6	読みたいと思わなかった理由は何ですか	(4で「読みたいと思わなかった」と答えた人のみ)
7	本を読むことが好きですか	
8	「好き」または「どちらかといえば好き」な理由は何ですか	※新規 (7で「好き」等と答えた人のみ)
9	「嫌い」または「どちらかといえば嫌い」な理由は何ですか	※新規 (7で「嫌い」等と答えた人のみ)
10	去年と比べて本を読むようになりましたか	
11	どのようにして本を手に入れることが多いですか	
12	学校の授業以外で図書館から本を借りたことがありますか	
13	電子書籍を読んだことがありますか	
14	今年11月の1ヶ月間に電子書籍を読みましたか	
15	1日にスマートフォン（携帯電話）を何時間使いますか	

※ 新たに項目8及び9を追加することにより、実態をより詳細に把握・分析することとした。

# 6 調査結果

## 【1ヶ月間に読んだ本の冊数】

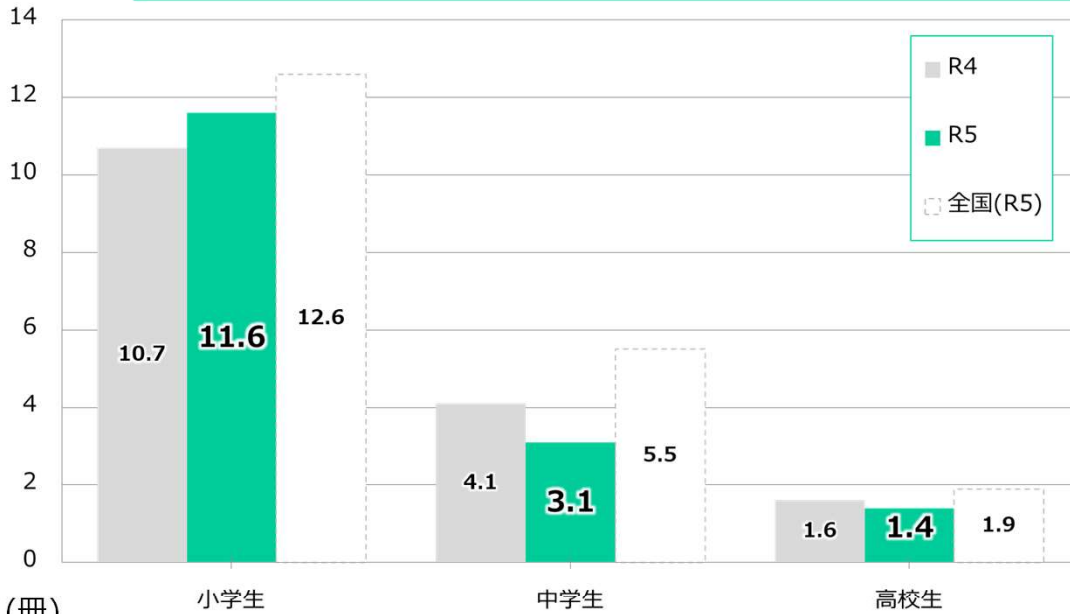
### 計画の評価指標

第四次みやぎ子供読書活動推進計画における数値目標

小学生**10冊以上**

中学生**4冊以上**

高校生**2冊以上**

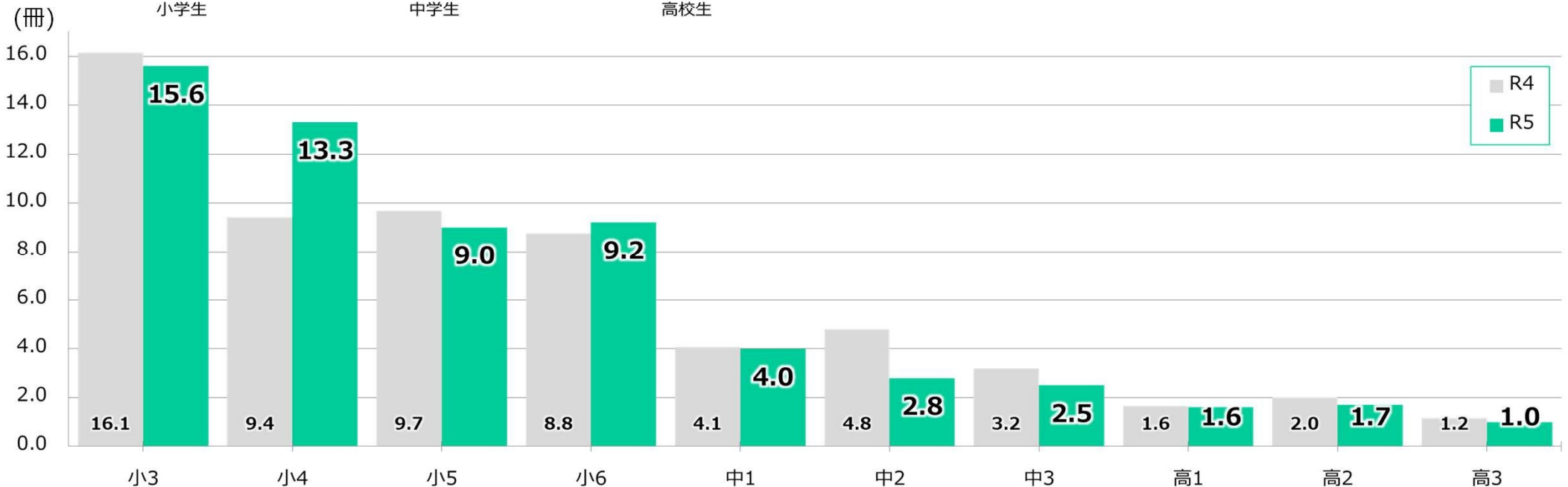


左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフ。

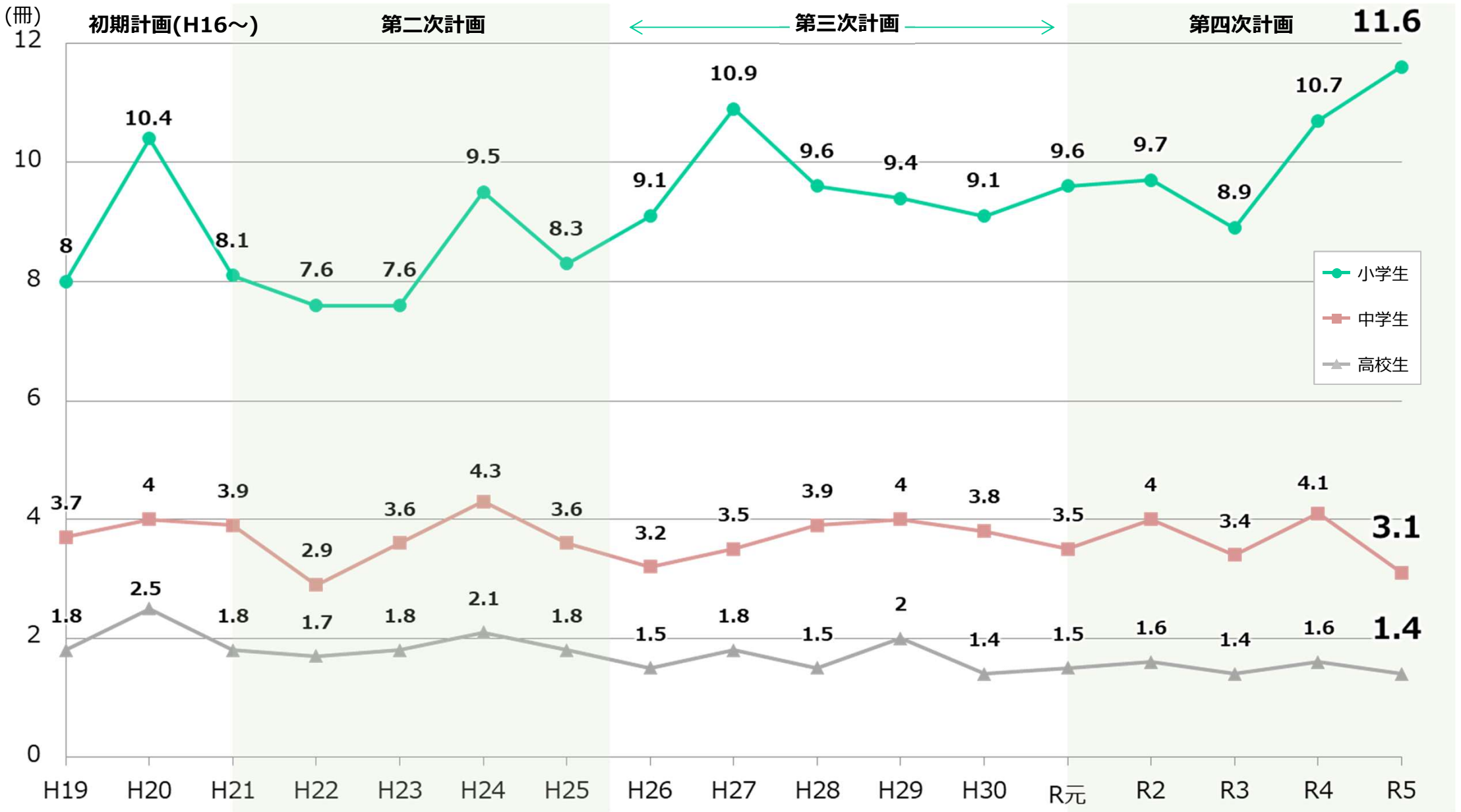
昨年度から、小学生+0.9冊、中学生-1.0冊、高校生-0.2冊となり、**小学生のみ対前年比増**となった。

学年別に見ると、**小学4年生の増加**と**中学2年生の減少**が顕著である。

計画における数値目標は上枠のとおりであり、**小学生のみ目標を達成**し、中学生及び高校生は達成できなかった。



# 【平均読書冊数の推移】



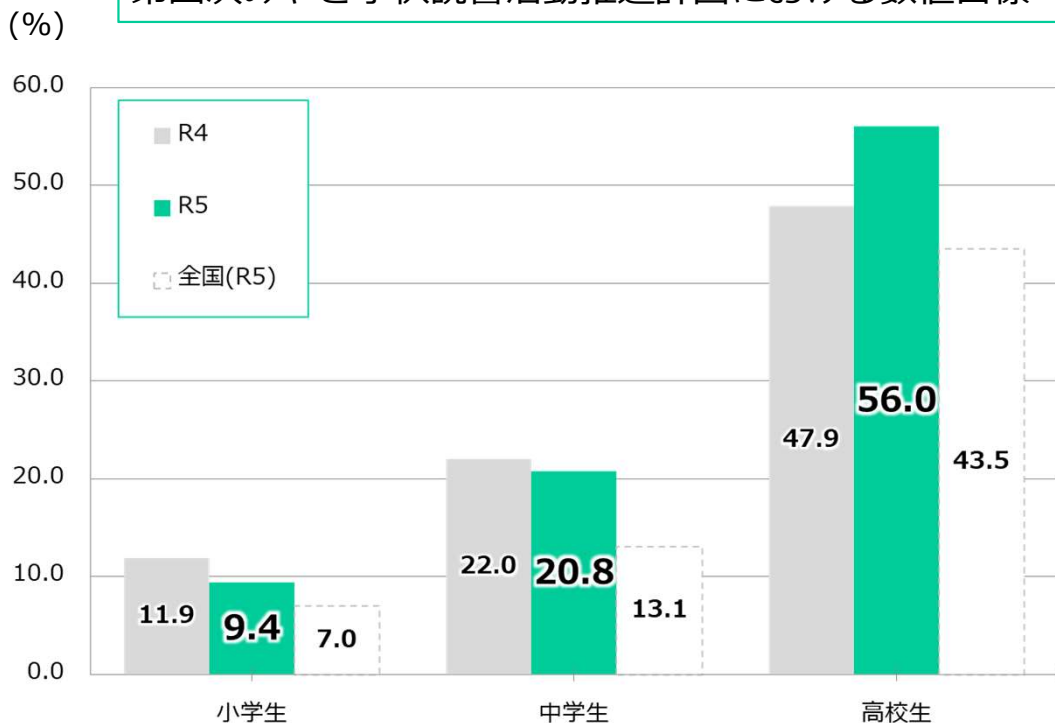
**小学生**は増加と減少を繰り返しながらも増加傾向にあり、**R5は過去最高**となった。

**中学生及び高校生**は調査開始時から**類似の数値変動**となっており、**R5の中学生**はH22の**最低冊数2.9冊**に次ぐ**3.1冊**、**R5の高校生**はH30及びR3の**最低冊数**と同じ**1.4冊**となった。

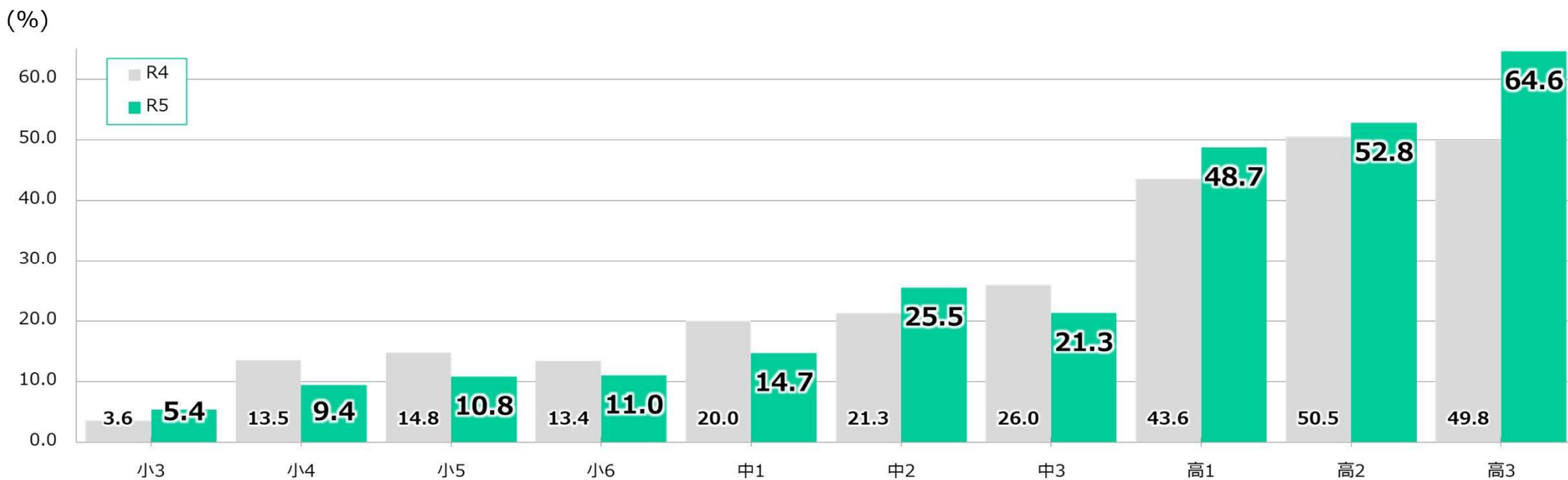
# 【不読率（1ヶ月間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合）

## 計画の評価指標

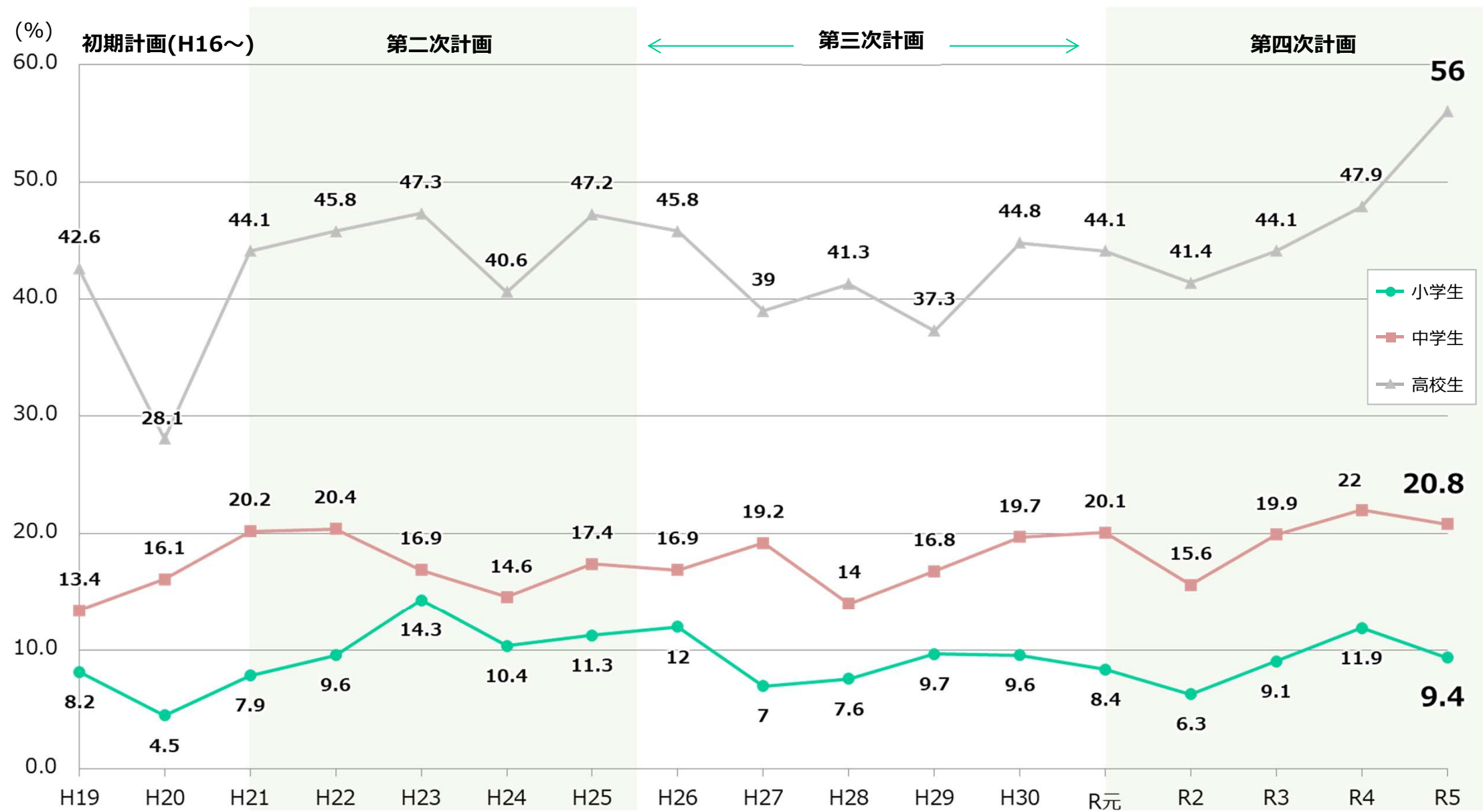
第四次みやぎ子供読書活動推進計画における数値目標 小学生**7%**以下 中学生**16%**以下 高校生**39%**以下



左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフ。  
 昨年度から、小学生-2.5ポイント、中学生-1.2ポイントとなり、**小学生及び中学生は対前年比減**となった。  
**高校生は+8.1ポイント**となり、昨年度から**大幅に増加**した。  
 学年別に見ると、**高校3年生の増加**が顕著である。  
 計画における数値目標は上枠のとおりであり、**全ての校種で目標を達成できなかった**。



# 【不読率の推移】

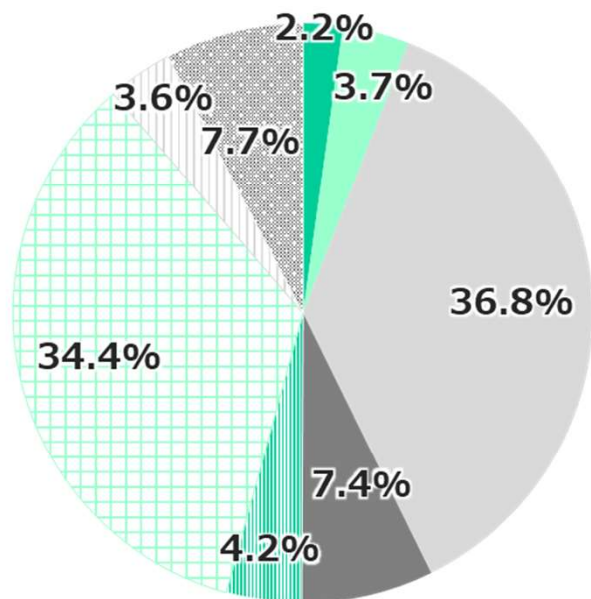


高校生はH29以降30%台に到達しておらず、第四次計画期間は増加傾向にあり、R5は過去最高（不読が多い）となった。  
 中学生及び小学生は、第三次計画期間から類似の数値変動となっており、第四次計画期間はコロナ禍が始まったR2の減少後増加傾向だったが、R5は共に対前年比減となった。

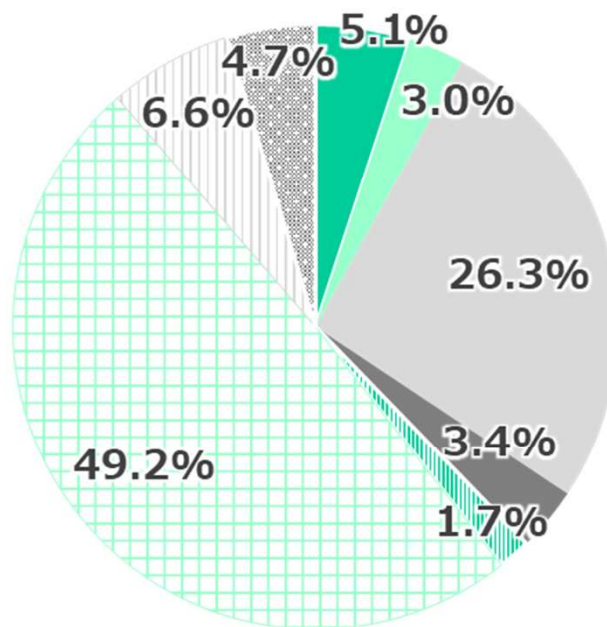


## 【本を読んだ理由】

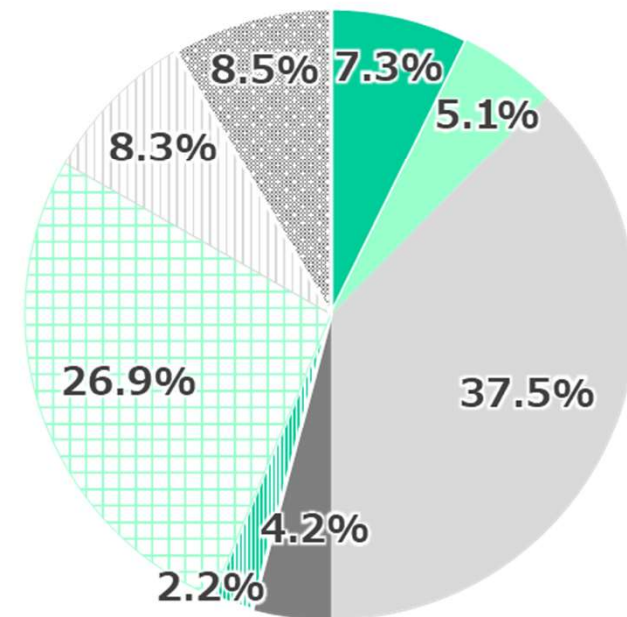
### 小学生



### 中学生



### 高校生



■ 話題の本があったから

■ 友達・家族・先生から読書をすすめられたから

■ 本を読むことが好きだから

■ 知らないことがわかるから

■ 学校の勉強になるから

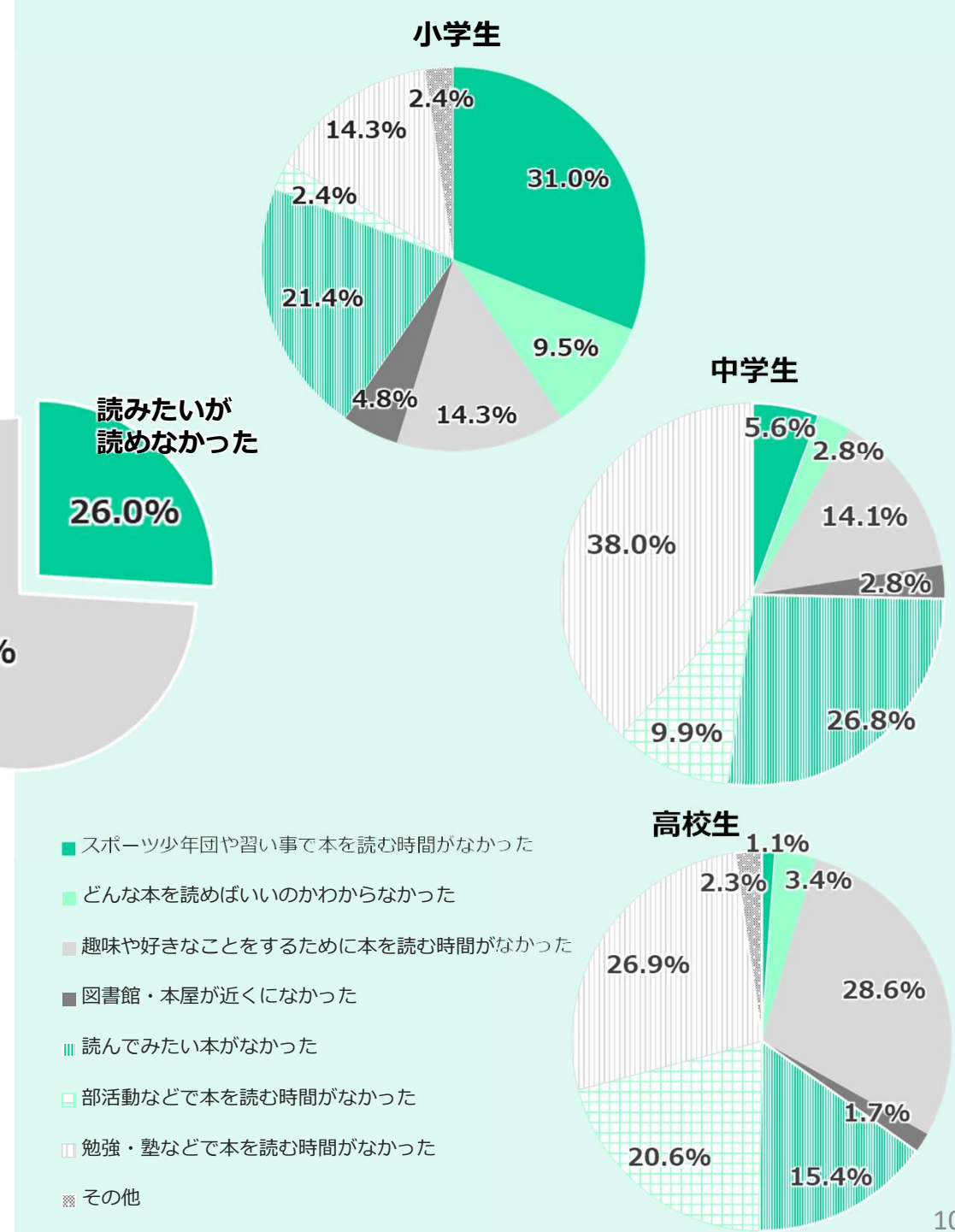
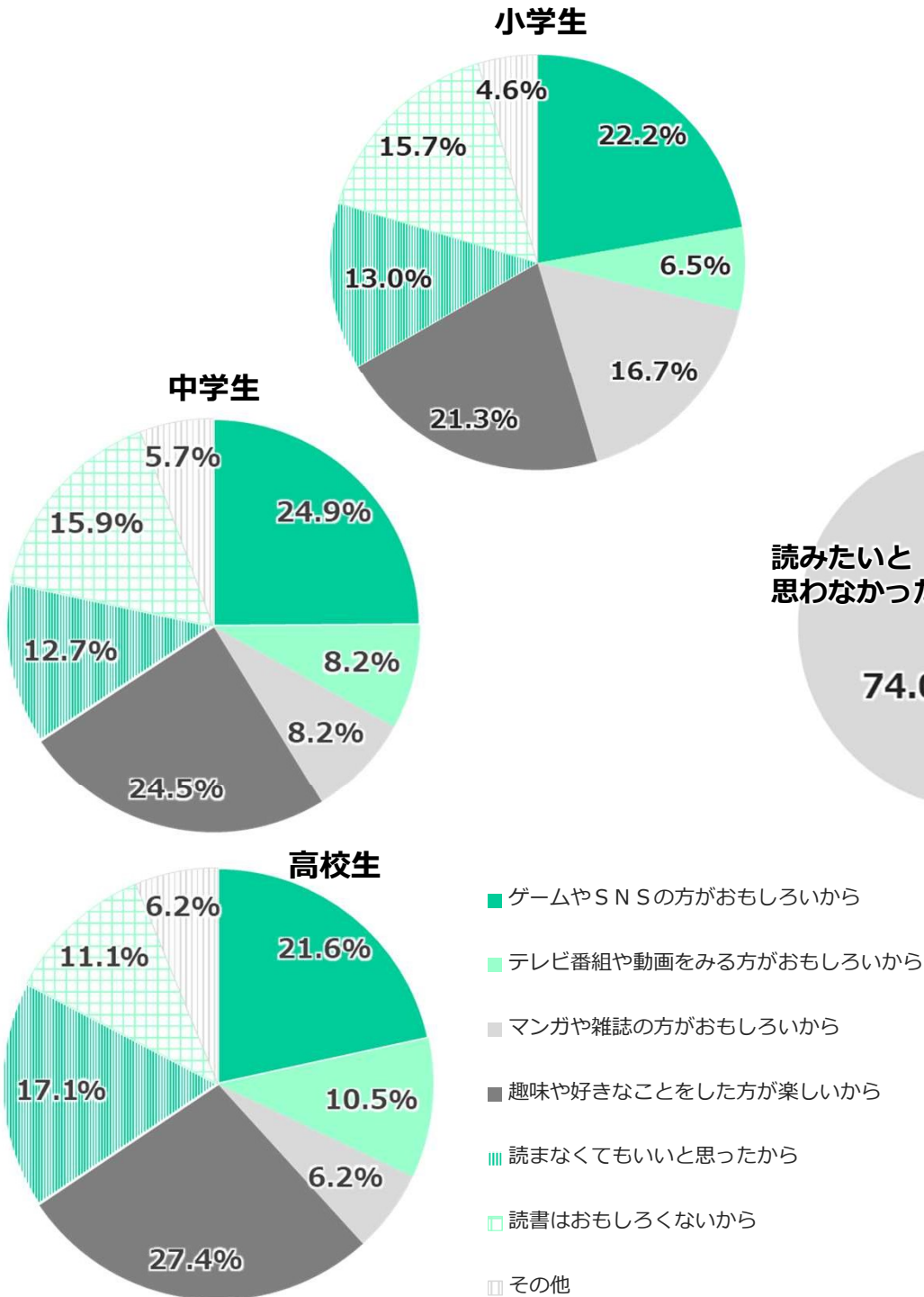
■ 学校で読む時間があったから(朝読書の時間など)

■ テレビや映画をみて、原作を読んでみようと思ったから ■ その他

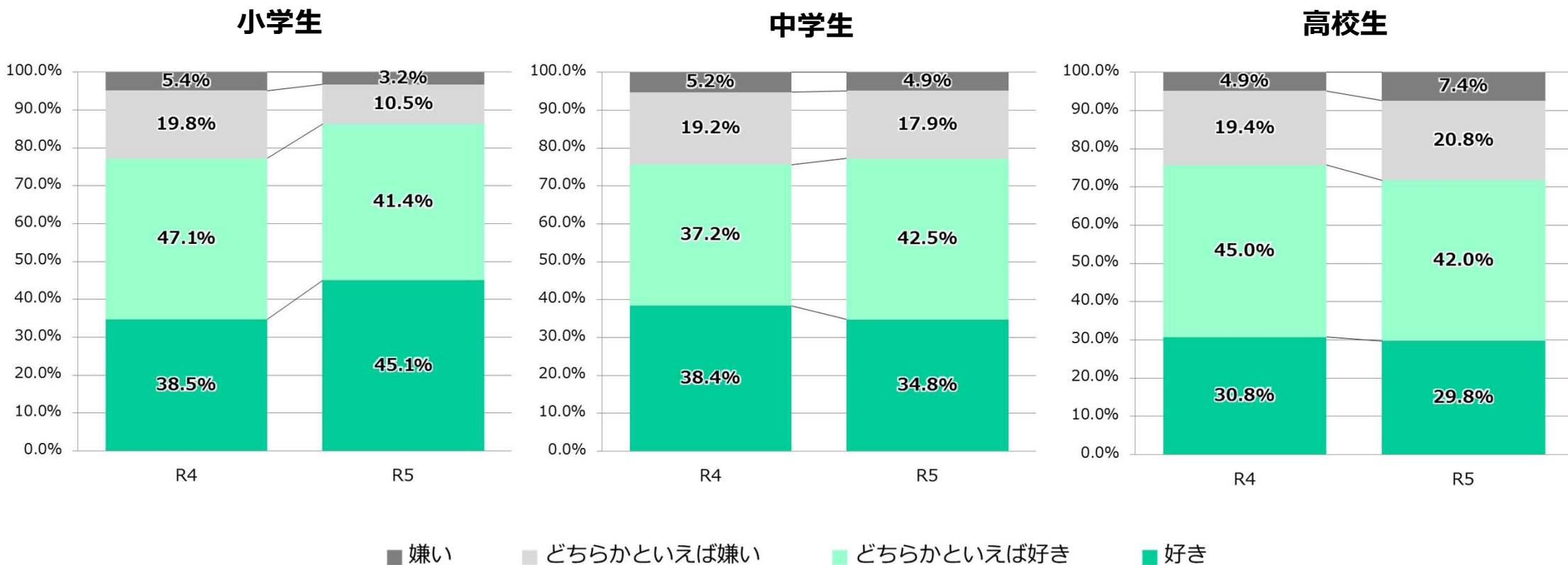
小学生及び高校生は「本を読むことが好きだから」が最も多く約4割であるのに対し、中学生は「学校で読む時間があったから」が最も多く約5割、次いで「本を読むことが好きだから」が3割弱となった。

「その他」の最多回答は、小学生は「好きな本だから」、中学生は「暇だったから」、高校生は「進路のため」であった。

# 【本を読まなかった理由】



## 【読書の好き嫌い】

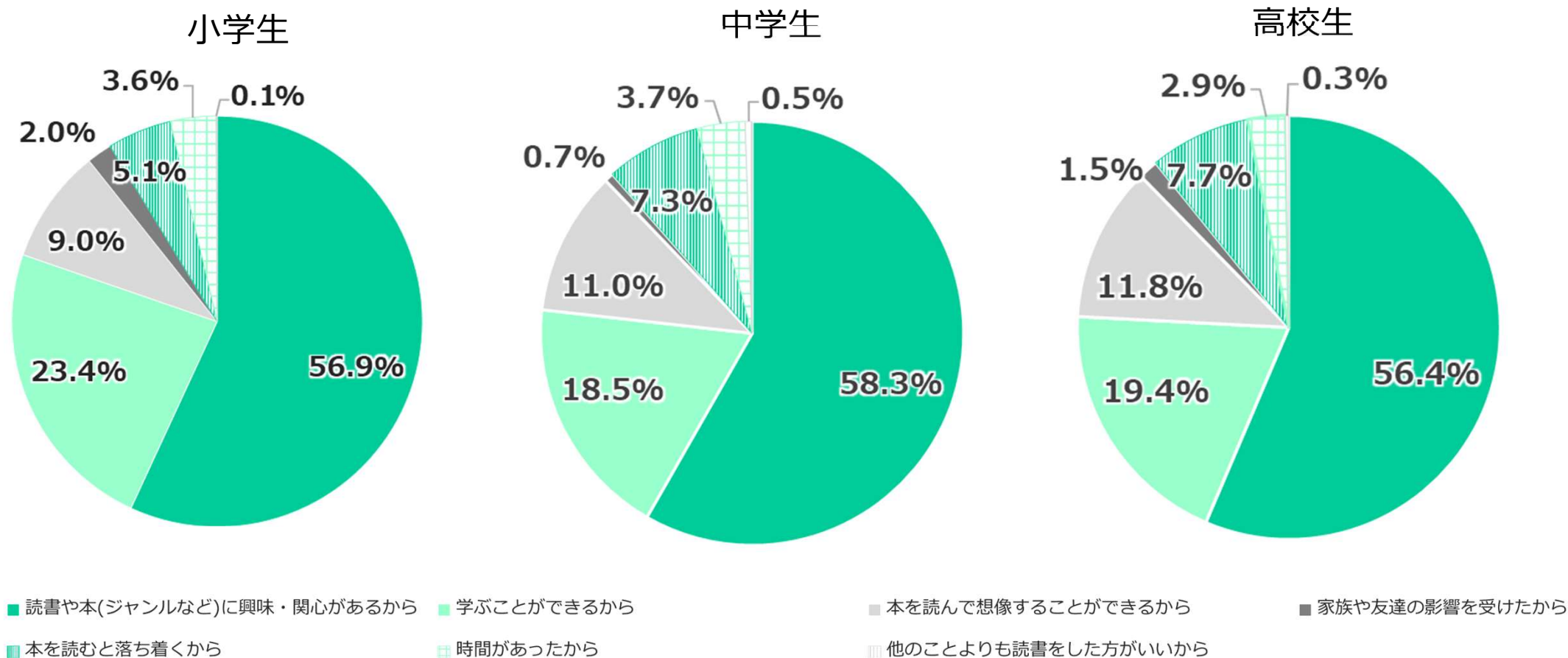


昨年度と比較すると、**小学生**は「好き」が**+6.6ポイント**となり、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童が**全体の約8割**を占めている。

中学生は「好き」が**-3.6ポイント**となったものの、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒が**R4より微増**となり、**全体の約7割**を占めている。

高校生は、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒が**R4よりいずれも減少**したものの、全体の7割は超えている。

【「好き」または「どちらかといえば好き」な理由】 ※新規



児童・生徒の実態をより詳細に把握・分析するため、今回新たに調査項目に追加したもの。

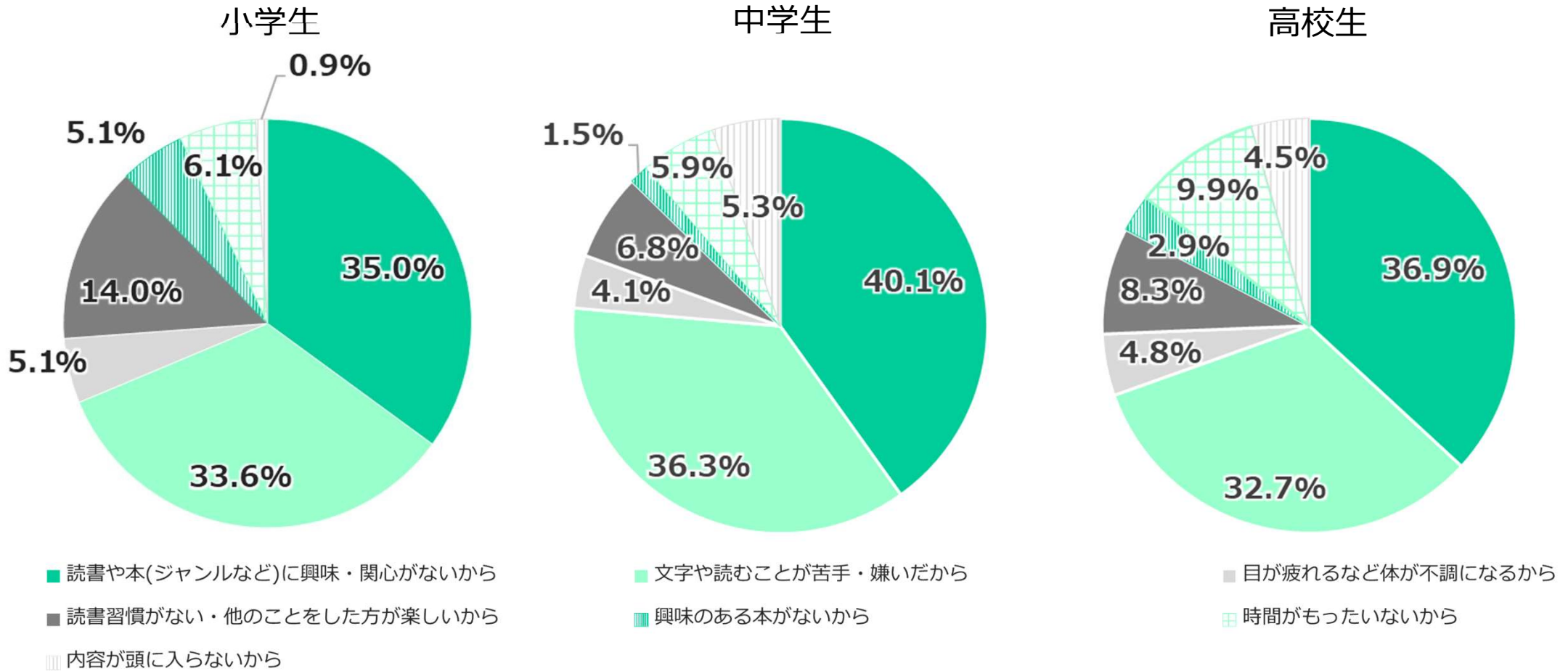
自由記述式としたため様々な理由があったが、それらを上記の7つに分類して集計を行ったもの。

全ての校種において、「読書や本(ジャンルなど)に興味・関心があるから」が最も多く、次いで「学ぶことができるから」、「本を読んで想像することができるから」となった。

**好きな理由については、具体的な回答がとても多かったことから、読書への意欲が感じられた。**



【「嫌い」または「どちらかといえば嫌い」な理由】 ※新規



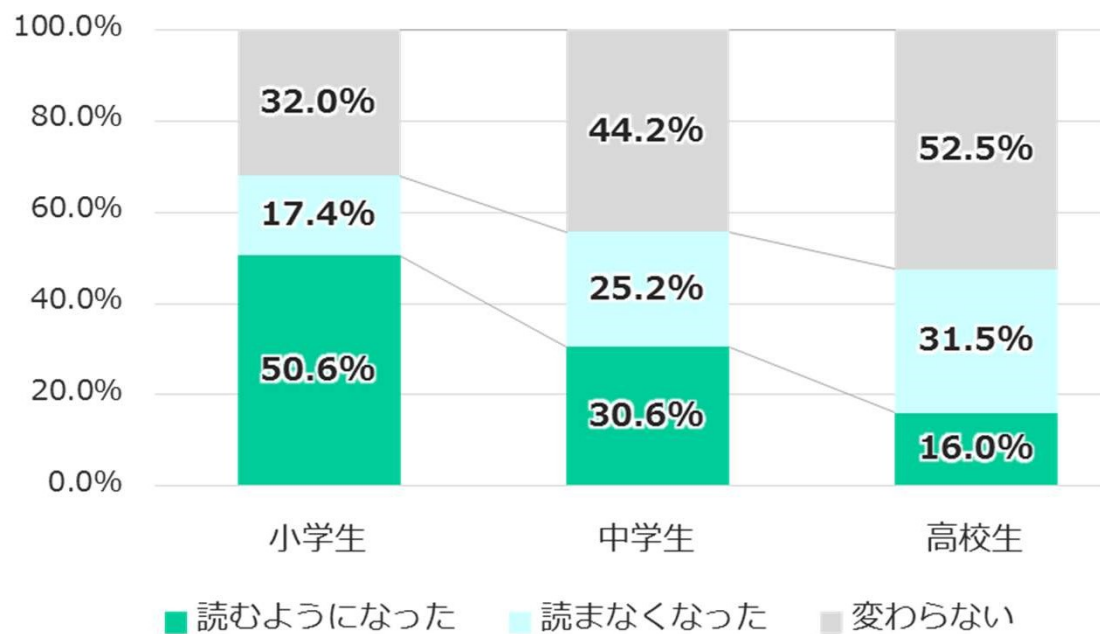
児童・生徒の実態をより詳細に把握・分析するため、今回新たに調査項目に追加したもの。

自由記述式としたため様々な理由があったが、それらを上記の7つに分類して集計を行ったもの。

全ての校種において、「読書や本(ジャンルなど)に興味・関心がないから」が最も多く、次いで「文字や読むことが苦手・嫌いだから」となった。

キーワードとしては、「つまらない」「面倒くさい」が多かった。

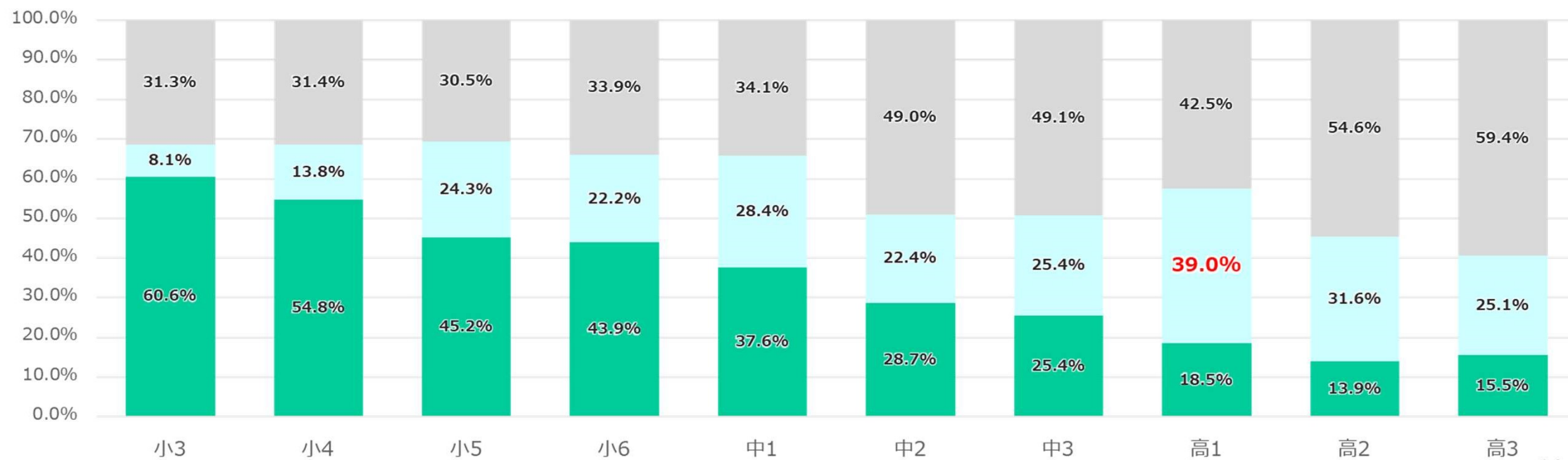
## 【去年と比較した読書頻度】



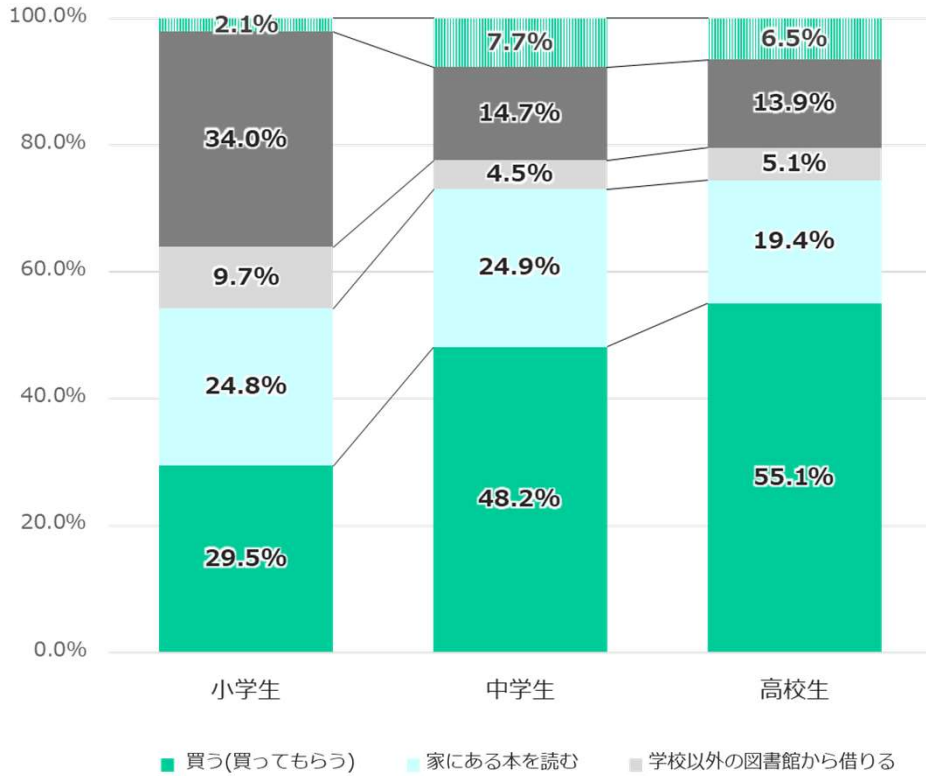
左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。

校種が上がるにつれて「読むようになった」が少なくなり、「読まなくなった」「変わらない」が多くなっている。

学年別に見ると、高校1年生の「読まなくなった」の数値が特に高くなっており、**不読率との連動が考えられる。**



【本の入手方法】 ※複数回答可



左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。

校種が上がるにつれて「買う（買ってもらう）」が多くなっている。

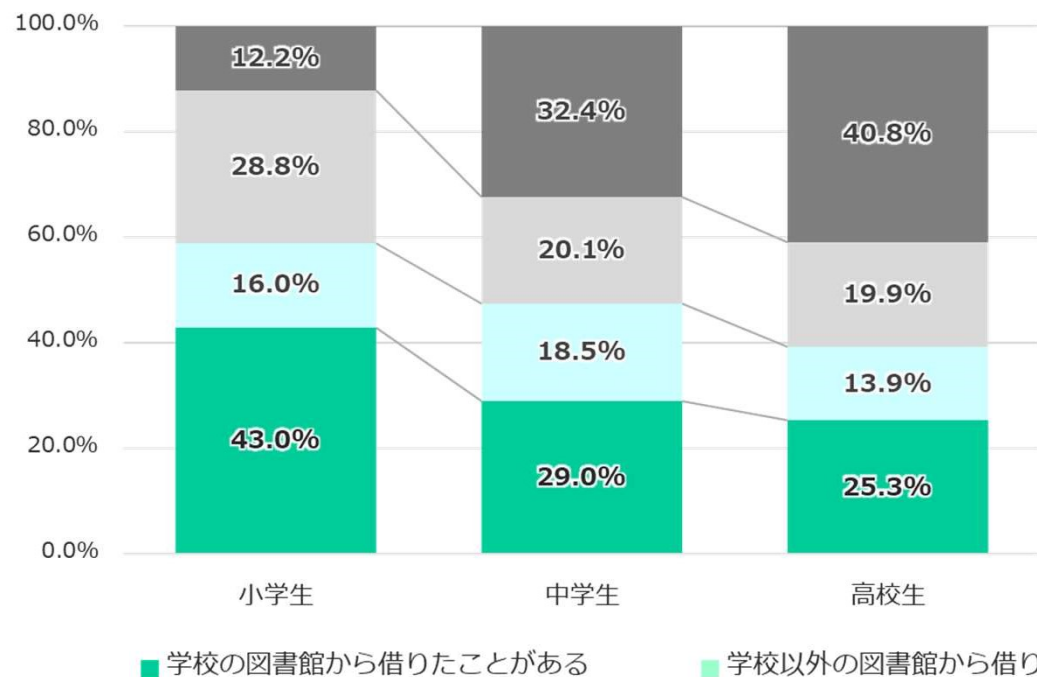
小学生は「学校の図書館から借りる」が最も多い。

学年別に見ると、特に小学6年生の割合が多くなっている。

中学生と高校生は学年による数値の変化はあまり見られない。



## 【各種図書館の利用経験（学校の授業を除く）】



左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。

校種が上がるにつれて「どちらもない」が多くなっている。

小学生は、「学校の図書館から借りたことがある」が最も多く、**本の入手方法との連動が考えられる。**

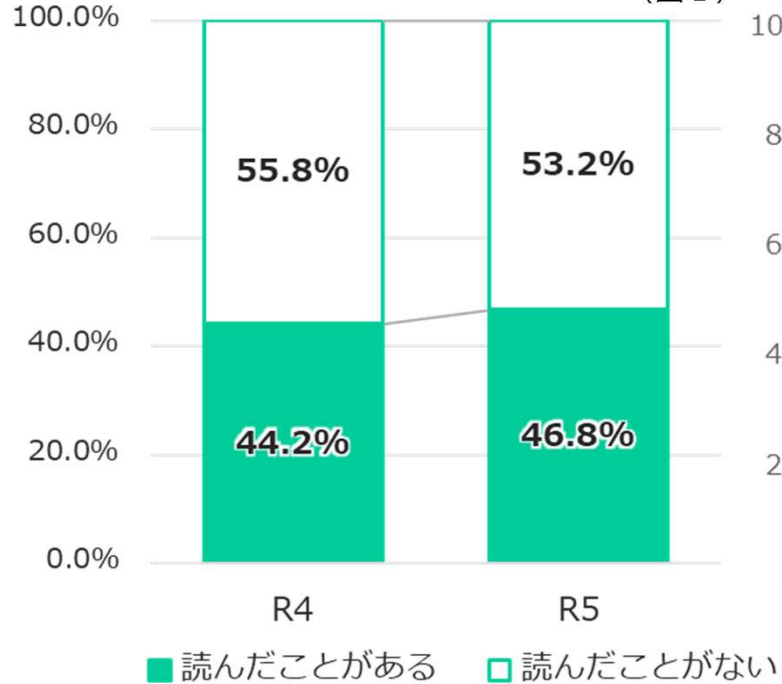
中学生と高校生は、学年による数値の変化はあまり見られない。





# 【電子書籍の読書経験】

(図1)



(図2)

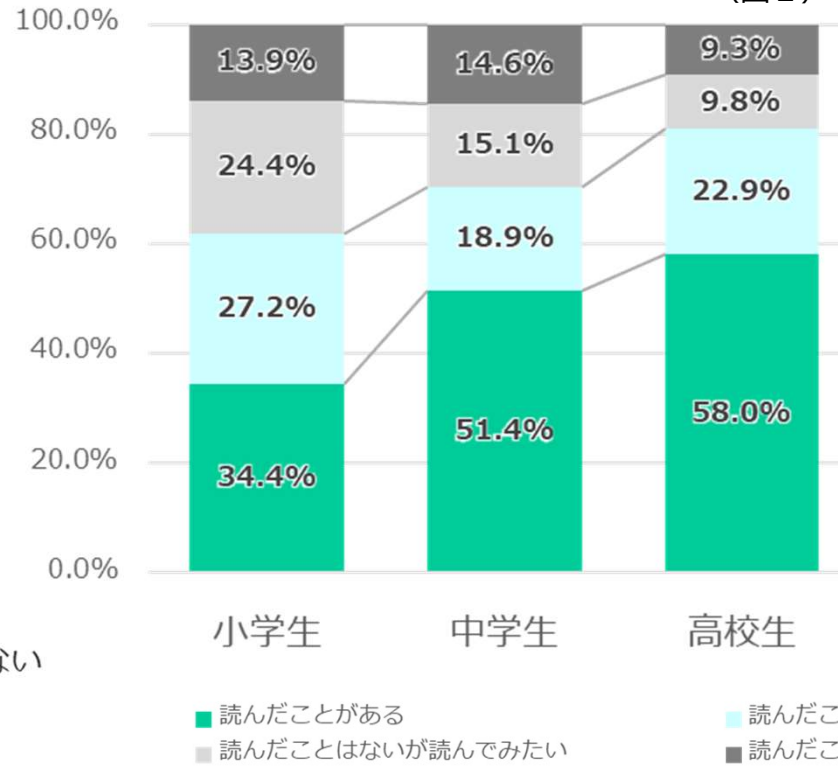


図1は全体の数値（全ての校種合算）を昨年度と比較したものの、R4よりも「読んだことがある」が微増となった。

R4よりも「読んだことがある」が微増となった。

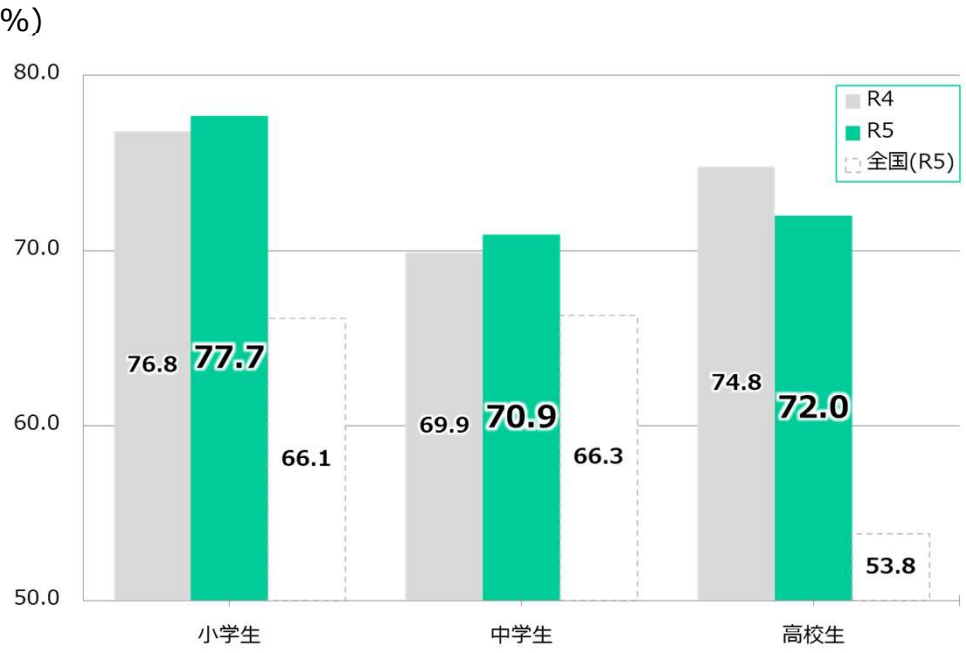
図2はR5の校種別の数値であり、校種が上がるにつれて「読んだことがある」多くなっている。

図3はR5の学年別の数値。

(図3)



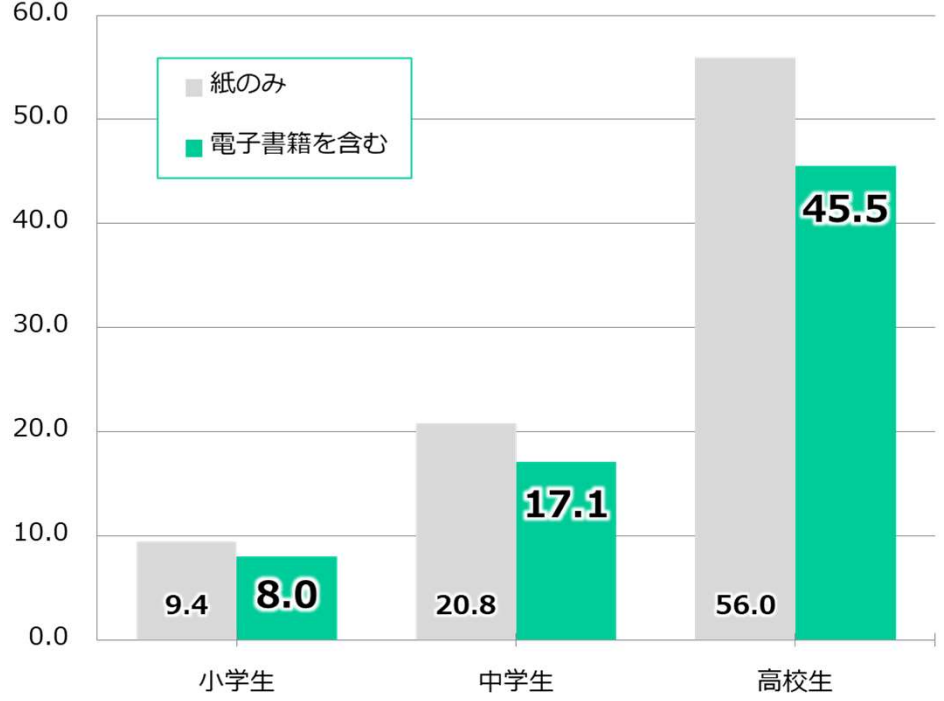
【電子書籍の不読率（1ヶ月間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合）】



昨年度から、小学生+0.9%、中学生+1.0ポイント、高校生-2.8ポイントとなり、**高校生のみ不読率が下がったため**、前頁の「**電子書籍の読書経験**」と連動していると考えられる。

また、電子書籍の不読率は、全ての校種において**全国値よりも著しく高い**傾向にある。

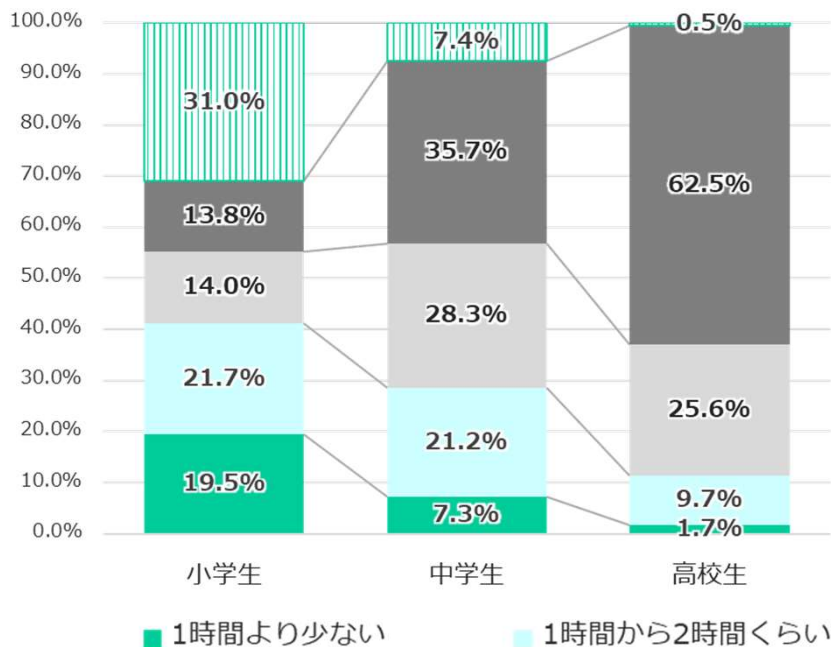
※不読率（1ヶ月間に紙の本・電子書籍どちらも読まなかった児童・生徒の割合）



紙の本のみの不読率と比較すると、**小学生-1.4ポイント、中学生-3.7ポイント、高校生-10.5ポイント**となり、**全ての校種で不読率が低下した**。特に**高校生の減少率が顕著**となった。

県では、R4調査から紙の本のみと電子書籍も含めた不読率の比較を行っており、R5はR4と同様の傾向となった。

# 【1日あたりのスマートフォン（携帯電話）の使用状況】



左図のとおり、校種が上がるにつれて「3時間より多い」が多くなっており、**特に高校生の割合が多い。**

下図は、児童・生徒を校種別に「読者」「不読者」に分け、それぞれ「1日あたりのスマートフォンの使用状況」を表したものの。

**特に小学生は、読者と不読者でスマートフォンの使用状況に差があり、「3時間より多い」と答えた読者が12.2%であるのに対し、不読者は28.7%と2倍以上多くなっている。**

## ※1日あたりのスマートフォンの使用状況（不読×使用状況）

